

『小岩井是非雄先生と松本ろう学校』

内 田 博 幸

◇ろう学校創立について

日本最初のろう学校創立は京都府ろう学校、2番目は筑波大学附属聾学校である。明治終わり頃より大正はじめ頃、全国のあちこちに私立〇〇盲啞学校としての創立が多かったようである。昭和になり、戦後公立移管のため盲人部と聾啞部を分離し、特殊教育としたのである。

長野県内では、ろう学校設置は2校であり、「長野ろう学校」と「松本ろう学校」である。

長野ろう学校創立までには、明治36年私立長野盲啞学校、大正13年長野市立盲啞学校、昭和8年長野県立盲啞学校と変遷し、昭和23年「長野県立長野ろう学校」が開校された。

松本ろう学校は、最初に盲啞学校の創設はなく、昭和3年「松本女子求道会附属聾啞教育所」が創立され、その後昭和7年「私立松本聾啞学院」に改称、昭和10年「私立松本聾啞学校」改称、昭和23年「松本市立ろう学校」改称、昭和25年に「長野立松本ろう学校」となり、現在に至っている。校舎の場所は、有名な「国宝松本城」や「重要文化財旧開智学校」のある観光地で、とても恵まれた環境な所に「松本ろう学校」が設置された。校舎は、「蟻ヶ崎校舎」「白板校舎」「旭町校舎」「美須々校舎」「現・寿校舎」と移り変わった。

◇ろうあ校長の小岩井是非雄先生について

ろうあ者の学校長就任については、官立東京聾啞学校（現・国立筑波大学附属聾学校）卒業生として、わが国では2名おられ、日本最初のろうあ校長の北海道八雲ろう学校（現・室蘭ろう学校）の辻本 繁先生と2番目の長野県松本ろう学校の小岩井是非雄先生が、活躍された。

小岩井先生は、明治27年松本市島内の農家に生まれる。明治44年東京聾啞学校を卒業後、岩手大学（掛け図の描画）、私立岩手聾啞学校（教員）他で、勤務された。

帰郷して家業の農業に従事したが、「松本市にろう学校を創りたい。」という夢を持って、再び東京聾啞学校師範部図画科で学び、教員免許状を取得された。

昭和3年11月10日、小岩井先生と寺田五三子先生（始業者）の経営の松本女子求道会附属聾啞教育所を創立し、本格的にスタートした。しかし、昭和7年経営難のため寺田先生が辞退され、小岩井先生が後継者となられ、その後「私立松本聾啞学校」を創設して、初代校長を就任。小岩井先生は音のない世界にしながら、私立をはじめ、市立を経て、待望の県立ろう学校となった「松本ろう学校」を愛し、ろう教育のために積極的に尽力された。その長い教員生活の苦勞が世に認められ、実に名誉のある勲五等瑞宝章に輝いたのである。

その他に、松本ろう学校同窓会（初代会長）や社団法人日本ろう

あ協会長野部会（部会長）など、ろうあ界のために献身された。
(昭和56年12月没)

◇松本ろう学校の歴史について

松本市蟻ヶ崎において、小岩井先生は「ろうあ教習所」を考えて、社会事業団松本女子求道会の指導者の寺田先生と共に「松本女子求道会付属聾啞教育所」を昭和3年開設した。生徒は6名。校舎は、学校でなくて民家の建物であった。これが「蟻ヶ崎校舎」である。そして昭和7年、寺田先生が経営難のため辞退し、後継者として小岩井先生は「私立松本聾啞学校」と改称し、自ら初代校長になられた。しかし、生徒数が増えたため松本市蟻ヶ崎から白板に移転した。この校舎は、盲学校や中学校寄宿舎を使用した建物であった。これが「白板校舎」である。しかし、白板校舎の時代は経営が最も苦しく、しかも昭和19年、文部省の調査があり、各種学校を整理する意のため「松本市内のろう学校を廃校するように」との命令があった危機の時代でもあった。小岩井先生は悩み、父兄会（現・PTA）や同窓会などと協力し、更に大阪ろう学校の高橋 潔校長先生と日本ろうあ連盟長の藤本敏文先生（大阪ろう学校教官）の援助を何回も頂き、ようやく「松本聾啞学校」を無事に存続する事ができた。そして、文部省と長野県知事より小岩井校長先生に対して、ろう学校設置及び校長と定める件が認可される運びとなった。

職員は、東京聾啞学校師範部卒業生の山中福代先生と平林弘也先生、松本ろう学校卒業生の（助教諭として）甕 信夫先生と長岡たけよ先生。教員が、全員ろうあ者だった時代もあった。

それから公立移管として、私立から市立となり2年程「松本市立ろう学校」として発展した。更に待望の県立移管ができ、校舎は松本市白板から旭町に移転した。蚕業試験場の建物だったが、学校らしく整備された校舎となった。これが「旭町校舎」である。

昭和25年の夏、「長野県松本ろう学校」が開設され、小岩井先生は1ヶ月程校長を就任されたが、長野県長野ろう学校より校長先生と教員5名位を迎えたため、小岩井先生は校長職を免ぜられ、その後は講師として教員生活を送り、県が建設した新しい「美須々校舎」において、昭和31年3月ろう学校を退職された。

◇終わりに

「小岩井是非雄先生と松本ろう学校」の調査に当たっては、小岩井先生のご遺族をはじめ、母校の先輩方、松本ろう学校、筑波大学附属聾学校同窓会などにご協力を頂き、記録や資料を平易にまとめ、これを知るべき一応レポートした。

偉大な小岩井先生の追想集を拝読したところ、「松本ろう学校」を創られたのは、音のない世界の小岩井先生にとって、大きな生き甲斐であったのだという事がわかった。

ろう者の皆さんと共に、「小岩井校長先生」の歴史をご理解頂ければありがたい事である。

(筑波大学附属聾学校・美術専攻科卒業 内田記)